

低温期検査	正常範囲
TSH	0.35~2.5 μ IU/mL 妊娠に望ましい
LH	FSH より低い (表 2 参照)
FSH	10IU/L 以下
エストラジオール (E ₂)	20~75pg/mL
プロラクチン	4.91~29.32ng/mL
テストステロン	0.11~0.47ng/mL

高温期検査	正常範囲
エストラジオール (E ₂)	100~200pg/mL
プロゲステロン (P ₄ 、黄体ホルモン)	10ng/mL 以上

更年期検査	正常範囲
FSH	40IU/L 以下
エストラジオール (E ₂)	20pg/mL 以上

E₂ (エストラジオール)

いわゆる女性ホルモンです。低温期では、発育した卵胞から産生され、子宮内膜を厚くしたり、頸管粘液を増やしたりする作用があります。卵胞が育つと値が高くなります。高温期では主に排卵後の黄体から産生され、黄体機能を反映します。

FSH

下垂体から分泌される、卵胞発育に必要なホルモンです。基礎値として、通常卵胞発育をしていない月経第3日目ごろに値を測定することで、卵巣の予備能力がある程度推測できます。高値の場合、卵巣機能が少し低下していることが考えられます。低値の場合、下垂体または間脳の機能が低下していることが考えられます。(表 2 参照)

PRL (プロラクチン、乳汁分泌ホルモン)

下垂体前葉から分泌されるホルモンで、本来妊娠中や分娩後にたくさん分泌されて母乳を出す働きをしますが、非妊娠時にプロラクチンが多量に分泌されると、生理不順や不妊の原因(無排卵・無月経・黄体機能不全)につながる可能性があります。プロラクチンが高値となる病気には下垂体の腫瘍、また CT やレントゲン検査ではわからないような微小腺腫があげられます。またドグマチールという胃の薬や安定剤などの向精神薬を服用していてもプロラクチンが高くなります。高い場合にはカバサールというお薬を処方します。

テストステロン

男性ホルモンの一種です。女性もテストステロンは分泌されていますが、過剰に分泌されている場合は排卵障害の原因になります。多嚢胞性卵巣症候群を疑う場合におこなう検査です

LH

排卵を起こさせるホルモンです。排卵間近になると急激に分泌が増え、卵巣で成熟した卵胞から卵子を排出するように働きかけます。基礎値としては、月経第3日目頃に値を測定します。排卵検査薬では尿中の LH の上昇をみています。月経中は FSH の方が LH より高いのが正常ですが、LH の値が FSH の値より高い、LH が 10mIU/ml 以上ある方は「多嚢胞性卵巣症候群」と言って、排卵障害の原因となっていることがあります。(表 2 参照)

P₄ (プロゲステロン)

排卵後の黄体から産生され、基礎体温を高温に保つホルモンです。着床しやすいように内膜の環境を整えます。

AMH (抗ミュラー管ホルモン)

卵巣予備能＝妊娠するために卵巣があらかじめ備えている能力を知る検査です。2.2ng/ml 以上あれば、卵巣機能が保たれていると考えられています。それ以下の場合は、早めの妊娠をお勧めします。ピル内服時等、低下すると報告されており低値の場合は後日再検をお勧めします(表 1 参照)

表 1 AMH

AMH 中央値 (ng/ml)	年齢
4.69 以上~	27 才以下
4.27~3.14	28~34 才
2.62~2.50	35~36 才
2.27~1.90	37~38 才
1.80~1.30	39~41 才
1.00 以下	42 歳以上

表 2 低温期検査の LH と FSH

FSH 低値 LH 低値	脳下垂体から卵巣へ指令がいかない為、卵胞(卵子)が育ちません。
FSH 高値 LH 高値	卵巣の反応が悪く、卵胞が発育しない為、脳下垂体から指令がたくさん出ている状態で、卵巣性無月経・早発閉経となる可能性があります。
FSH 正常 LH 高値	卵胞はたくさんできるのですが、成熟・排卵に至らない状態です。多嚢胞性卵巣症候群(PCOS)に多く見られます。